

# “社員の身近な存在” を目指し 面談や巡視を 意欲的に推進



SUMCO TECHXIV株式会社(宮崎事業所)統括室 健康管理グループ 産業医 谷山ゆかりさんに聞く

現代生活に欠かすことのできない電子機器類。その心臓部ともいえる半導体のコアとなる“シリコンウェーハ”を生み出すSUMCO TECHXIV株式会社。

長崎・大村市の本社および長崎事業所をはじめ、国内外に事業所を構え、積極的な事業活動を展開中だ。

その事業所の一つである、社員約700人を擁する宮崎事業所は、宮崎市郊外の豊かな自然が数多く残る清武町に立地する。

今回、登場いただく産業医の谷山ゆかりさんは、同事業所の専属産業医として現在、意欲的に産業保健活動を推進している。

## 行動する産業医、全社員を対象に 面談をスタート

谷山さんがSUMCO TECHXIV宮崎事業所で勤務を始めたのは、今から3年前のこと。それまでは同じ宮崎県内の家電メーカーの工場に、2年間ほど産業医として勤務していた。しかし、その工場が生産を中止、事業所を撤退したために、現在の事業所に移った。

谷山さんが着任するまで同事業所では、体調不良の社員の診察が、産業医の主な仕事。しかし、「全社員を平等に診たい」と、一昨年8月から全社員を対象とした面談をスタートさせた。

まず、谷山さんは事業所の責任者である工場長に、「企業の安全配慮義務を遂行する上で、面談が役立つ」など、その実施の必要性を説明。また、安全衛生委員会で周囲の理解を求めた。

従来から積極的な安全衛生活動を展開してきた同事

業所では当初、面談に対して異論はなかったものの、「全部見ることが可能ですか」といった、面談の実行性を疑問視する声も聞かれた。

そこで谷山さんは、6月に実施した定期健康診断の結果がまとまるのを待ち、8月から面談をスタート。まず、社員を部署ごとにグループ分けし、月、水、金の週3日の午後、1人当たり20分を費やして面談を開始した。また、時間の都合のつかない火曜日と木曜日は、中村亜里沙保健師の協力を仰いだ。

面談内容は、社員の業務内容の確認、簡易調査票を活用したストレス調査など。また、健康診断結果の説明も行い、その結果、昨年7月には全社員に対する面談が無事終了した。

## 築かれた信頼、2回目の面談では さまざまな相談が

当初の予定通り、全社員に対する面談を実現した谷山さん。大きな収穫が得られたのは2回目の面談からだった。

1回目の面談の際、社員の対応は協力的だったものの、何か物足りなさを感じていた谷山さん。しかし、そんな気持ちも次第に払拭されることに。それは、2回目の面談から積極的に悩みを打ち明けてくる社員が増えてきたということだ。

つまり、1年目はいわゆる“顔見せ興行”。社員らは新しい産業医がどのような人物なのかを観察していたという訳だ。

ほぼ1年間を要して実施した面談を通し、構築され



個人面談の様子。社員と谷山さんとの絆が



研修のひとコマ



中村保健師(右)とは息の合った絶妙のコンビ

た谷山さんと社員との信頼の絆。その結果、社員の中には「仕事が増えても、少ない人数で対応しないといけないので大変」など、いわゆるグチの類から体調の問題やメンタル的な悩みなど、多岐にわたる相談を谷山さんに持ちかけるようになったという。また、谷山さんも、1年目の面談の際に行っていた質問事項に、新たに睡眠に関する質問を追加。メンタル面での問題の掘り起こしに努めた。

このようにして得られた社員のさまざまな悩みや相談を受けて谷山さんは、現場の所属長らに社員の健康上やストレスの問題などの情報を提供。社員らが何を考えているかを伝え、日常の管理の上での留意点を指示した。これにより、班のメンバーの入れ替えが行われるなど、社員らが働きやすい職場環境を目指した改善にも大きくつながっていった。

### 褒める職場巡視、自主的な改善を促す

一方、職場巡視も谷山さんの大切な仕事の一つ。月2回以上、事務部門や生産部門にかかわらず職場巡視を実施し、気づいたことは何でも指摘する。逆に「良かった点は何でも褒めます」と、自主的な改善を促す配慮も忘れない。

そんな職場巡視で改善されることが、新しい防じんマスクの導入だ。

同事業所では、物を破砕する作業では従来から防じんマスクを使用していたが、職場巡視の際に社員から「マスクをしていても鼻の周りが黒くなる」との指摘が。谷山さんは即座に「マスクに問題があるのでは」と部門の責任者に指摘。その結果、使用しても作業者の鼻の周りが黒くならない新しい防じんマスクが導入された。

これは、日常、作業現場では当たり前のことと捉え

られがちだが、専門家の目によって改善された事例の一つだろう。

また、同事業所での定期健康診断の結果を見ると、血中脂質や肝機能などに有所見者が多いという、平均的な傾向を示しているが、中には心臓病などの持病を持つ者やメンタルヘルス不調による休業を余儀なくされる者も。谷山さんは、そのような社員に対しては、電話や面談による状況確認、復職後のフォローなど、キメ細かな対応も忘れない。

### 次の目標は全社員対象のメンタルヘルス研修

そもそも、谷山さんが産業医を目指したきっかけは、「病院で働くより、社会と関わりのある広いステージで働きたかった」ため。日々の仕事を振り返り、「産業医は、今の世の中を感じられる」と語る谷山さんは、いま充実感にあふれている様子。その一方で、「自分は会社に必要なのか、会社は自分に何を求めているのか――。これまで悩みながら、手探りしながら産業医をやってきました」とも。

しかし、全社員への面談により、産業医として絶大な信頼を得た谷山さんは、いまや社員に欠かせない存在。自身も「今の活動を続け、社員のより身近な存在になれば」と、さらなる産業医活動、産業保健活動に意欲を燃やす。

次の目標の問いに対しては、「全社員を対象としたメンタルヘルス研修と健康教育を考えています」との答えが。メンタルヘルス研修は従来、管理監督者向けには実施してきた同事業所だが、谷山さんは面談などを通し、全社員に対する研修の必要性を痛感。「教材は用意しつつあります。これから会社と相談します」と、面談に続く新たな取組みがスタートする日も近いようだ。